

いおワールドかごしま水族館

「生きる」を哲学にした展示

鹿児島県の海は、与論島まで、南北600kmにも達する広大な海だ。そこには、活火山桜島が中核を占める錦江湾や、南西諸島のサンゴ礁、ヒルギ科植物などが生育するマングローブの海岸など、バラエティーに富んだ環境が存在する。いおワールドかごしま水族館は、その鹿児島の海をベースに展示がなされた水族館で、ラッコとアマゾン水槽以外は、すべて鹿児島県の海で構成されている。

どこにでもある黒潮の海の大水槽も、本場鹿児島ではひと味違う。「生きる」をテーマにしたこの水族館では、展示するジンベエザメを、5.5

mを超える前に海に放流する方式をとっている。幅25mの大水槽であっても、20mにも成長するジンベエザメの天寿をまっとうするまで飼育できない、という考え方による。

実際にまともな考え方が、なかなかできないことだ。その代わりに敬意を表したい。

異世界生物サツマハオリムシ

桜島をいまだく錦江湾では、海底から火山性物質が吹き出す。その硫化水素をエネルギーにして海底で生きるのがサツマハオリムシだ。この水族館では、世界で初めてサツマハオリムシを飼育展示している。よく観察すれば、小さなエビがたくさん付いている。深海の映像でしか見られ

なかつた異世界が、実際に目の前にあることに感動する。

もう一つの注目の展示は、マングローブの海辺を現した水槽だ。潮が満ちれば根が塩分を含んだ水中に没する植物ヒルギの仲間が、水を浄化し、小さな生物のすみかとなる。さらに、落ちた葉が腐葉土となって、彼らに食物を提供し、

一帯の豊かな生物相を支えている。備え付けられている双眼鏡を使って、シオマネキなどの生物を観察すると、まるでフィールド観察をしているようだ。

は、ジンベエザメに目を奪われずに見れば、クロマグロやカツオが泳ぎ



↑ジンベエザメの泳ぐ黒潮大水槽は、25mの幅に奥行き15m、深さ5m。壁の色、照明の調整によって、深い青色が出る演出がされていてとても美しく印象的だ



↑実物のヒルギ科植物が植えられたマングローブの水槽は珍しい。備え付けの双眼鏡で、トビハゼやシオマネキを観察する



↑南西諸島の海。サンゴ礁の海を巨大なタマカイが泳ぐ。どの水槽も上下の高さが広く、臨場感を感じる



↑清潔な感じのイルカショースタジアム。ショーの時間だけでなく、地階の水中窓、満潮時には海につながる水路でも、イルカを見ることができる



↑海藻の覆った岩礁を切り取ってきた水槽に、海全体の生命感を感じる



↑サンゴのポリプを観察するため、拡大できるルーペが付いている



↑この水族館のラッコ水槽は見やすいが、ラッコの食事ときには一瞬で山のようにながめる

PICK UP

サツマハオリムシ



一般の生物には有毒な硫化水素を取り入れて生きている。桜島のある錦江湾ならではの異世界生物。



↑アマゾン水槽はとても広々としている



TEL 099-226-2233
鹿児島県鹿児島市本港新町 3-1
http://www.ioworld.jp/
営業時間 9時30分～18時(GW、夏休み期間中の土曜、お盆期間などに「夜の水族館」の開催あり、詳細は要問い合わせ。入館は閉館1時間前まで)
休館日 12月の第1月曜日から4日
入館料 大人 500円、小人(小・中学生) 750円、幼児(4歳以上) 350円
駐車券 大人 3000円、小人(小・中学生) 1500円、幼児(4歳以上) 700円
交通 JR鹿児島中央駅から市電 5分、水族館口下車徒歩 8分(またはバス約 15分、水族館前・桜島橋下車すぐ)、車→九州道薩摩吉田ICまたは鹿児島北ICから鹿児島市内内河内へ約 20分周辺の無料駐車場を利用
駐車場

